

文部科学省科学技術人材育成費補助金
女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)

地域社会で育む『輝く女性研究者』支援

平成23年度報告書



ま え が き

女性研究者支援事業も2年目となり、1年目に種をまいた地面から、少しずつ芽がでてふくらんできた感があります。これもひとえに大学内はもとより、県内外の多くのかたの御支援と御協力の賜物と感謝いたします。

今回、一步一步進んでおります私たちの2年目のあゆみを、アルバムにまとめました。

今後ますます花をさかせるべく、努力してまいります。どうぞ今後ともあたたかく見守っていただきたいと存じます。

大分大学女性研究者サポート室長
松浦 恵子

文部科学省科学技術人材育成費補助金
女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)

地域社会で育む『輝く女性研究者』支援

平成23年度報告書

2011.04.07

医学部新生を対象とした男女共同参画教育が行われました

大分大学では、平成22年10月に男女共同参画行動計画が策定されました。その行動計画に掲げられた「男女共同参画に関する教育の推進」の最初の取組みとして、医学部新生(医学科101名、看護学科70名)を対象に男女共同参画教育が行われました。講師を務めた教育福祉科学部の山岸治男教授は、ご自身の経験やエピソードを織り交ぜながら、「男女共同参画を基にして、今後のキャリア形成・ライフコースの形成を図っていくことが大切である」と話をされました。

参加した新生からは、「自分で納得のいく、自分の創った人生を歩んでいきたいと思った」や「今後の人生設計の参考になった」など多くの感想や意見を頂きました。



2011.05.20

第1回FAB交流会を開催しました

学部・学科を超えた女性研究者ネットワークを構築するとともに、女性研究者の抱える悩みや問題及び支援に対する要望などを把握することを目的とした“FAB交流会”を開催しました。

第1回は教育福祉科学部の教員2名、経済学部の教員2名、医学部教員1名およびサポート室スタッフ3名が参加し、昼食をとりながら情報交換を行いました。



■新メンバー紹介【平成23年度に新たにメンバーとなったお二方を紹介します】

●協力教員 山崎栄一 教育福祉科学部 准教授

4月から新しく推進委員となりました山崎(栄)です。憲法学者であることもあり、男女共同参画につきましては関心もございまして、このような実践の機会を与えていただき、今後とも微力を尽くしたいと思います。

●サポート室員 丸山あや コーディネーター(看護師)

5月から女性研究者サポート室の室員として採用されました丸山です。親御さん・お子様が安心して利用できる病児保育施設の開設に向けて、小児科看護師としての勤務経験を活かし努力していきたいと思っております。

2011.06.08

工学部男女共同参画セミナーおよび大分大学男女共同参画セミナーを開催しました

男女共同参画推進の取組みで先行する、熊本大学の前理事・副学長(人事・労務・男女共同参画等担当)である森光昭氏(現:同大学名誉教授)を講師としてお迎えし、工学部男女共同参画セミナーおよび大分大学男女共同参画セミナーを開催しました。

工学部男女共同参画セミナーでは工学部教授会出席者約70名を対象に、「女性教員を増やす方策」の演題で、男女共同参画社会基本法や第3期科学技術基本計画の内容に触れながら、「今や男女共同参画の推進は、大学の業務実績の評価対象にも組み込まれている」ことを説明され、熊本大学での具体的な取組み内容についてお話いただきました。

大分大学男女共同参画セミナーでは管理職員を中心とした約40名を対象に、「熊本大学の男女共同参画推進の取組み」の演題で講演され、「男女共同参画や女性研究者支援を推進するために全学的推進体制の確立やコーディネーター制度を創設したこと、意識改革・制度改革・保育支援・チャレンジ支援の具体的活動の説明および採択事業終了後の継続策」などについてお話いただきました。



2011.06.16

大学・短期大学・専門学校進学ガイダンスでサポート室を紹介しました

大分イベントホールにて、『大学・短期大学・専門学校進学ガイダンス』が開催され、女性研究者サポート室は、大分大学のブースに来られた女子高校生や保護者の方100名以上に対して、ニュースレターやチラシの配布を行い、サポート室での取組みについて説明しました。

「大分大学では昨年から女性研究者支援が始まり、女性が働きやすい環境を整備し、女性が今まで以上に活躍し将来仕事と家庭の両立ができるサポート体制を作っている」ことを説明すると、「今後の参考にしたい」という声が聞かれました。これから進学しようとしている女子高校生や保護者の方に、大分大学には女性研究者支援の取組みがあることを知っていただく良い機会になりました。



2011.07.01

第1回FABキャリア交流会を開催しました

女性研究者サポート室では、企業や研究の現場で活躍されている先輩方を招いて、ご自身のキャリアなどについて語っていただき、気軽に意見交換を行える「FABキャリア交流会」を開催しました。

第1回目は、(株)白石中央研究所事務課の当真瑞代さんと工学部の堤紀子先生を囲み、総勢32名(学生22名)で昼食をとりながらの開催となりました。

当真さんはご自身の経歴を述べられる中で、人生の岐路で何を考え、何を選択してきたか、どのような働き方をしてきたかについて、工学部の堤先生は、研究者の道を選んだ経緯や女性研究者として心がけていることなど、学生へのアドバイスを織り込みながら話をされました。



2011.07.13

経済学部で学部別セミナーを開催しました

経済学部では、教授会出席者60人余を対象に、当室の松浦室長が講師となって、日本の女性研究者の現状や国の取組みをもとに、本学で昨年度から積極的に取り組んでいる男女共同参画推進体制の整備や各種支援策を説明し、今後の事業推進に対する理解と協力を求めました。



2011.07.15

医学部セミナー「女性医療人のキャリア継続のために」を開催しました

九州大学大学院医学研究院 保健学部門の橋木晶子教授を講師としてお招きし、同大学で取り組まれている「九州大学病院きらめきプロジェクト」について、大分大学医学部の教職員及び大学院生・学生を含めた約40名を対象にご講演いただきました。「女性の働く環境を整えるためには、男性医療人も含めた支援が必要であり、また地域社会や外部組織との連携も大切であること、女性医療人への支援は、男性医療人にとっても病院全体にとっても重要である」と説明されました。



2011.07.20

「大学生の今から『男女共同参画』を自覚しよう」というテーマで講義を行いました

経済学部で行っている、新入生対象の基礎演習共通プログラムの一つとして、「大学生の今から『男女共同参画』を自覚しよう」というテーマで講義を行いました。

講師は教育福祉科学部の山岸治男教授が務め、具体的な事例を基に、学生たちに考えさせ、発表させながら講義を行い、男性も女性も将来の自分を見つめ、社会参画し、責任感・使命感の伴う実践を行っていくよう期待を込めて、講義を終えられました。



2011.08.10 ■ 巨野原キャンパス:「女性研究者と語ろう」・「女性教授の研究室を覗こう」開催 挟間キャンパス:医学科と看護学科で「サポート室紹介コーナー」設置

オープンキャンパス当日、次世代育成のための活動の一環として、巨野原キャンパスでは、「女性研究者と語ろう」と「女性教授の研究室を覗こう」を開催し、挟間キャンパスでは医学科と看護学科でサポート室紹介コーナーを設けました。

「女性研究者と語ろう」では、訪れた女子高校生はサポート室活動紹介動画の視聴後、教育福祉科学部、経済学部及び工学部の女性研究者と語り合いました。女性研究者からは、自身が研究者になったきっかけや、研究の楽しさ、ワークライフバランス等について語っていただき、女子高校生からは進路目標に対してどう歩んでいくべきかなどといった具体的な質問が寄せられました。

また、「女性教授の研究室を覗こう」では全学研究推進機構の一二三恵美教授の研究室を多くの女子高校生が訪れました。研究室所属の学生や大学院生から研究内容の説明や研究のおもしろさについて話を聞き、顕微鏡で細胞を観察するなどの体験をしました。

挟間キャンパスの医学科紹介コーナーでは、松浦恵子サポート室長が多くの女子高校生を前に、医学研究の大切さや大分大学における女性研究者支援体制について説明しました。また看護学科でも丸山サポート室コーディネータが看護学研究の大切さなどについて説明を行いました。



参加者アンケートより

巨野原キャンパス

- 女性研究者が少ないと言われる中、このようなサポートがあるとすごく良いと思います。研究者への道も考えてもよいなと感じました。貴重な映像をありがとうございました。
- このようなプログラムは今後の女性のキャリアアップにとって、非常に重要であると思う。
- 男性、女性関係なく仕事ができる環境が良いと思いました。
- 研究者というイメージは理系ばかりのイメージでしたが文系の研究者もいるということに驚きました。

挟間キャンパス

- 看護学科に進学しても、看護師以外の道もあるということを知った。
- 研究職と医師を両立できることを初めて知ったし、このようにサポートが充実していると知って、ますます大分大学に興味を持ちました。

■ 2011.09.03

「男女共同参画頑張ってるで賞」を受賞しました

「第3回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 長崎」において、各大学の女性研究者支援の取り組みを紹介するパネル展示が行われ、シンポジウム参加者による投票の結果、大分大学は『男女共同参画頑張ってるで賞』を受賞しました。



■ 2011.09.16

第2回FAB交流会を開催しました

第2回目FAB交流会を開催しました。全学研究推進機構の一二三教授、教室員1名、大学院3名、学部学生5名および女性研究者サポート室長の計11名の女性研究者が参加し、昼食をとりながら情報交換を行いました。

特に、学会発表のスキルアップの重要性や、研究者として大学に残ることや博士課程に進んでいくことの大切さについて、さらにこれから研究と育児等との両立をすることに関しての不安や具体的対策について話し合いました。



■ 2011.09.20

女性枠研究者奨励賞授賞式を行いました

学長室において第2回女性枠研究者奨励賞授賞式が行われ、羽野忠学長より奨励賞受賞者に表彰状が授与されました。併せて、平成23年度春季および秋季の学会派遣支援の採択者には採択決定の通知書が渡されました。

第2回女性枠研究者奨励賞6名、
春季学会派遣支援 国際学会3名、国内学会1名
秋季学会派遣支援 国際学会3名、国内学会8名



■ 2011.09.20

学長と女性研究者との懇談会を行いました

羽野忠学長と女性枠研究者奨励賞授賞式の出席者との懇談会が授賞式後に行われました。

出席者一人ずつ、自身の研究内容の紹介や女性研究者支援への要望について述べました。特に支援に関しては、奨励賞や学会派遣支援の長期継続、病児保育や研究補助員制度の早期実現、若手の育成等の要望が出されました。



■ 2011.09.20

第3回FAB交流会を開催しました

女性枠研究者奨励賞授賞式に出席した女性研究者と松浦恵子女性研究者サポート室長による第3回FAB交流会を行いました。

授賞式での学長を前にしての緊張した面持ちとは異なり、同じ研究者同士リラックスした様子で、他の研究者へ質問するなど情報交換しました。



■ 2011.09.27

第4回FAB交流会を開催しました

女性枠研究者奨励賞授賞式に出席できなかった医学部所属の女性研究者と松浦恵子女性研究者サポート室長が、奨励賞と学会派遣支援通知書授与も兼ねて、第4回FAB交流会を行いました。交流会では、普段なかなか接する機会がない医学科と看護学科所属の研究者とが情報交換を行い、それぞれの研究内容やワークライフバランスについて、また研究と臨床や教育との両立や将来のキャリアについて意見交換を行いました。



■ 2011.10.08

第9回医学部祭において講演会を開催しました

第9回医学部祭において、女性研究者サポート室主催の講演会を開催しました。

東京医科大学 医学教育学講座 泉美貴教授により、「医師として成功するコツ～たったの3つ!～」と題した講演が行われました。

泉教授は、医師として成功するために、

- ①良い師匠につく
- ②卒後最初の4年間は、死にもの狂いで仕事をする
- ③良い伴侶を得る

という3つの秘訣についてご自身の実体験を含めユーモアあふれるお話をいただきました。



■ 2011.11.01

「研究サポーター事業」を始めました

育児(妊娠中を含む)・介護に携わる研究者に対し、研究者の業務を補助する研究サポーターを配置することで、研究者のワーク・ライフ・バランスを支援し、研究活動の活性化を促進することを目的とします。女性研究者に限らず、男性研究者も対象とします。

研究サポーター事業概要

研究補助を希望するもの(利用者)

(利用資格)

- ・妊娠中(産休中を除く)
- ・小学校6年生までの児童を養育している者
- ・家族に要介護者または要看護者がいる者

②研究サポーター利用申請

女性研究者サポート室

人材データバンク

③利用が決定した場合

研究サポーター(サポート室付)を利用者のもとへ派遣

①応募

研究サポーターの取扱いについて

【研究サポーターの業務】

研究活動に必要な実験補助、研究データ分析、統計処理、資料作成、文献調査等の研究補助

【支援期間】

当該年度6ヵ月以内、月72時間以内、週20時間以内

【勤務時間】

利用者の勤務中に、利用者の指示のもと業務を行う。

研究サポーターになることを希望するもの

- ・本学の在学生
- ・卒業生
- ・外部の希望者

■研究サポーター利用者のコメント

本年度11月から開始した研究サポーター事業において、女性研究者(医学部)が利用者第一号に決定しました。

12月12日から研究サポーターが配置されており、「子供の迎えや病気に左右されずに実験を進めたいと思っていた。一人より早く、効率的にできるようになった」とのコメントを頂いています。



2011.12.06

男女共同参画トップセミナーを開催しました

管理職を中心とした約40名を対象に、長崎大学の大井久美子氏 副学長・男女共同参画推進センター長による「男女共同参画のすすめ—推進する力とたちはだかる壁—」と題した講演が行われました。

長崎大学は平成21年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択されており、大井氏は最終年度となる今年度までの活動を総括して話されました。事業推進体制の構築やポジティブアクションの策定、さらにはテクニカルスタッフ雇用制度や育児支援等の具体的活動に触れながら、活動の成果やいまだ残る課題について詳しく説明していただき、立ちはだかる壁に対しいかに推し進めていったかということを力強く述べられました。

また全教職員を対象とした意識調査についても触れ、男女共同参画の推進が長崎大学に与える効果について、多くの教職員が「男女双方にとって働きやすい環境づくりにつながる」と認識しているという結果が出たと説明されました。



サポート室の発行物

5月	11日	FABレポートNo.4
6月	13日	FABレポートNo.5
7月	21日 29日	FABレポートNo.6 News Letter No.3
9月	20日	FABレポートNo.7
10月	31日	News Letter No.4
11月	18日	FABレポートNo.8
1月	24日	ロールモデル誌
2月	6日	FABレポートNo.9
3月	23日	News Letter No.5 啓発本



2011.12.06

第2回FABキャリア交流会を開催しました

男女共同参画トップセミナーの後、講師の大井久美子氏を囲んで、第2回FABキャリア交流会を開催しました。

長崎大学での女性研究者支援や男女共同参画推進の取り組みを参考にしながら、大分大学でもどのように展開していけるかをメインテーマに話し合い、参加した理事や協力教員、大学院生が率直な感想を述べるなどして、有意義な交流会となりました。



2012.01.11

経済学部で第2回目学部別セミナーを行いました

経済学部の教員を対象に学部別セミナーを開催、講師として、大分労働局の松永涼子雇用均等室長をお迎えし、「ポジティブアクションのすすめ」と題してご講演いただきました。

松永室長は、ポジティブアクションの必要性や企業の取組み状況について説明された上で、他大学での取組みを紹介し、本学でも積極的な取組みが行われることを期待していると述べられました。



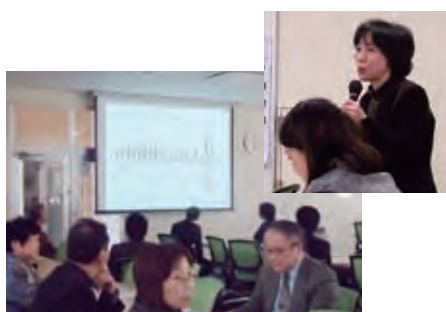
2012.01.18

教育福祉科学部で女性研究者支援に関するセミナーを開催しました

教育福祉科学部の教員を対象に女性研究者支援に関するセミナーを開催し、松浦恵子女性研究者サポート室長が講師を務めました。

先ず、日本における女性研究者の状況や女性研究者が少ない理由を説明しました。さらに、当大学における女性研究者支援事業の背景には国の方針および当大学の掲げた目標があり、この支援事業によって女性研究者が活躍することは大学にとってプラスになると述べ、さらなる支援活動への協力を求めました。

聴講された教員の方からは、貴重な意見やアドバイスを頂きました。



2012.01.19

大分大学男女共同参画公開講座「女性研究者の活躍とワークライフバランス」を開催しました

大分全日空ホテルにおいて、大分大学男女共同参画公開講座「女性研究者の活躍とワークライフバランス」を開催し、県内の自治体や団体、本学および他大学関係者、一般市民が参加しました。

松浦恵子女性研究者サポート室長による、大分大学の女性研究者支援事業についての説明の後、中川幹子診療教授(医学部)と都甲由紀子講師(教育福祉科学部)が、奨励賞等受賞の対象となった研究について発表を行いました。

特別講演では、国際ジャーナリスト・キャスターであり明治大学国際日本学部教授・学部長でもある蟹瀬誠一氏が「幸せはワークライフバランスから」と題し、講演されました。蟹瀬氏は、夫婦で働きながら子育てした経験を織り交ぜながら、「育児」ではなく「育自」、「共働き」ではなく「共育て」と、視点を変えて言葉を捉えることで人間は意識や考え方が変わる。言葉は非常に大事であると強調されました。



2012.01.24

ロールモデル誌「大分大学の輝く女性研究者」を発行しました

この冊子では、大分大学で活躍する女性研究者90名の中から、19人の方を紹介しています。研究の内容や、進路選択のきっかけ、後輩へのメッセージなどを掲載しています。



2012.02.01

教養教育科目で、男女共同参画の講義を行いました

全学共通科目「職業とキャリア開発」に、下郡恵美子キャリア・コンサルタントを講師に迎え、「少しずつ歩みよりの協働～未来志向の男女共同参画～」という題目で講義が行われました。

下郡氏は、約160名の全学年の学生を対象に、「おおいた若者サポートセンター」等での就職支援業務の経験を踏まえた具体的な内容で、これからの社会を背負う学生たちに、性別や世代にこだわらない生き方の重要性を訴えました。



ポジティブアクション宣言をしました



2012.02.06

英語論文の書き方セミナーを開催しました

医学部において、英語論文の書き方セミナーを開催しました。医学部の教職員と大学院生を中心に約40名が参加しました。

エダンズグループジャパン(株)のWarren Raye講師が、「エディターからの英語論文に関するアドバイス」と題して、Session1、Session2、Workshopの項目に分けて、具体的かつ実践的な英語論文の書き方について説明を行いました。

日本人の英語論文の特徴的な問題点や英語表記で留意すべき点などについて詳しく解説し、さらに単語の使い方や役立つ表現などについても説明していただきました。



テレビ・ラジオ出演

テレビ・ラジオ出演		
1月19日	大分大学のラジオ番組 FM大分「Bundai Radio ACADEMY」	松浦恵子室長が出演し、サポート室を紹介しました
2月1日～ 2月29日	TOSテレビ大分 OAB大分朝日放送	イメージキャラクター「FAB子ちゃん」によるサポート室紹介CM放送
2月25日	OAB大分朝日放送 「れじゃぐる」	「FAB子ちゃん」出演CMの紹介
3月1日	TOSテレビ大分 「TOSスーパーニュース」	松浦恵子室長へのインタビュー 女性研究者、研究サポーター事業紹介

2012.03.12

医学部で男女共同参画講義を行いました

平成24年3月12日(月)、大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)との共催により、主に医学部4年生を対象に、男女共同参画講義「デートDV防止セミナー」を開催しました。

講師の佐賀県DV総合対策センターの原健一所長は、「自分も相手も大切に」との演題で、ビデオを使って具体的な事例をあげながら、デートDVについて説明されました。また聴講生に対し、医療者としてDVの視点をもつことが、DVや虐待を発見することにつながると述べられました。

参加者からは、「デートDVという言葉を初めて聞いたという人も多く、「自分自身を見つめ直すいい機会になった」、「将来医療現場で役立てていきたい」など多くの感想をいただきました。



家庭と両立へ 研究サポート

大分大が補助員を配置

女性のキャリア向上のモデルに 実験や資料作成手伝う

実験や資料作成を手伝う。研究に専念できる環境を整える。大分大学が、女性教員のキャリアアップを支援する取り組みを紹介した。記事は10日付の『大分県民新聞』に掲載された。



実験室のサポートを受け、研究に専念する女性教員。右が医学部准教授の佐藤さん。左が医学部准教授の佐藤さん。

家庭と両立しながら研究を続ける女性教員を支援する大分大学。女性教員が研究に専念できる環境を整える。大分大学が、女性教員のキャリアアップを支援する取り組みを紹介した。記事は10日付の『大分県民新聞』に掲載された。

サポート室の活動を紹介した新聞記事

- 4月25日 大分合同新聞
なるほどサイエンスコーナーでサポート室紹介
- 9月24日 大分合同新聞
女性研究者奨励賞授賞式について
- 10月10日 大分合同新聞
医学部祭での講演会開催について
- 1月7日 大分合同新聞
大分大学男女共同参画公開講座開催のお知らせ
- 1月20日 大分合同新聞
大分大学男女共同参画公開講座
- 1月27日 大分合同新聞
イメージキャラクター「FAB子ちゃん」紹介
- 1月28日 大分合同新聞
ロールモデル誌「大分大学の輝く女性研究者」紹介
- 1月31日 大分合同新聞
研究サポーター事業について
- 2月1日 西日本新聞
女性教員の積極的採用について

奨励賞・学会派遣支援の実績

奨励賞		
	受賞名	所属・職名簿
研究者部門	最優秀賞	教育福祉科学部 講師
	最優秀賞	医学部 助教
	優秀賞	医学部 助教
	優秀賞	医学部 助教
大学院生部門	最優秀賞	工学研究科 大学院生
	優秀賞	医学系研究科 大学院生



春季学会派遣支援		
	所属	職名等
国際学会	教育福祉科学部	講師
	教育福祉科学部	講師
	医学部	技術補佐員
国内学会	教育福祉科学部	技術補佐員



秋季学会派遣支援		
	所属	職名等
国際学会	医学部	医員
	工学部	技術職員
	工学研究科	大学院生
国内学会	医学部	助教
	医学部	助教
	医学部	医員
	工学部	准教授
	全学研究推進機構	助教
	教育学研究科	大学院生
	教育学研究科	大学院生
医学系研究科	大学院生	



研究サポート事業利用者 4名		
所属・職名等	申請理由	
医学部医学科 助教	育児	
医学部医学科 助教	育児	
医学部看護学科 助教	育児	
医学部看護学科 助教	育児	



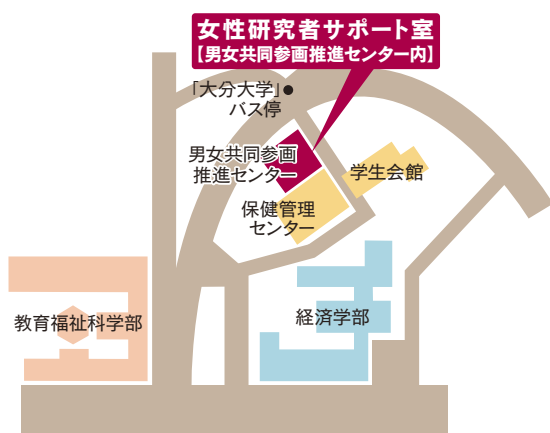
FAB(ふあふ)ちゃん
大分大学女性研究者サポート室のキャラクター



国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB”

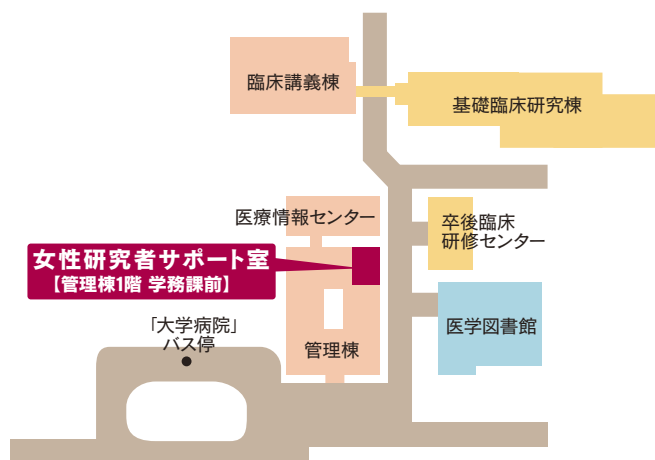
E-mail fsupport@oita-u.ac.jp

URL <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>



● 巨野原キャンパス

〒870-1192
大分県大分市大字巨野原700番地
国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室
TEL:097-554-8573 FAX:097-554-6039



● 挟間キャンパス

〒879-5593
大分県由布市挟間町医大ヶ丘1丁目1番地
国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室
TEL&FAX:097-586-6347



国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “FAB”

E-mail fsupport@oita-u.ac.jp URL <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>